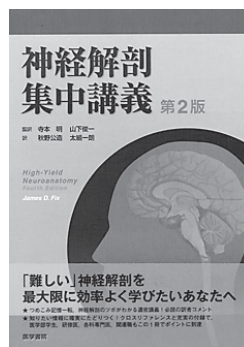


ジェームス D. フィックス(原著)
寺本 明, 山下俊一(監訳)
秋野公造, 太組一郎(訳)

神経解剖集中講義(第2版)

伴 信太郎

(名古屋大大学院医学系研究科健康社会医学専攻総合診療医学講座)



『神経解剖集中講義 第2版』(原著 “High-Yield Neuroanatomy 4th Edition”)は、実に丁寧に作り込まれた本である。それは原著にも翻訳にも言える。恐らく原著に触発された翻訳者が、翻訳に際して労を惜しまなかった結果、このような単なる翻訳書にとどまらない、工夫に満ちた本として仕上がったものと思う。

翻訳者は巻末に現行の「コア・カリキュラム対応表」を付け、原書には含まれない解説を付し、さらにはわが国の臨床統計を追記している。これは並大抵なことではない。翻訳者および監訳者の真摯な取り組み姿勢に心からの敬意を表したい。

さて、その内容であるが、米国の医学生 USMLE のテキストとして最もよく読まれているものであるというのも十分にうなずける。神経解剖と臨床の記載のバランスが絶妙である。全体は24章からなるが、図や画像がふんだんに使用され、「臨床との関連」の項目がある。さらにはほとんどの章に「Case Study」が用意されている。「臨床との関連」は既に臨床に従事している人にとって有用であるのみならず、神経解剖を学ぶことを目的とする人にとっては、その実用性を感じさせるのに極めて有用である。「Case Study」は、学生・研修医・若手医師にとって勉強になるのみならず、臨床指導医にとっては、臨床問題の作問の仕方の参考にもなる。

例えば、顔面神経の項(「11章 脳神経」の中にある)では、解剖学的な概説の次に「臨床との関連」として

1. 表情筋の弛緩性麻痺

2. 角膜反射の消失
3. 味覚の消失
4. 聴覚過敏
5. ベル麻痺
6. ワニの涙症候群
7. 核上性(中枢性)顔面神経麻痺
8. 両側性顔面神経麻痺
9. メビウス症候群

が挙げられ、それぞれ簡にして要を得た説明が加えられている。

本書の利用の仕方は、読者のさまざまな立場によって多様であろう。USMLEを受験しようとする人の参考書として、本書の本来の目的に使うことももちろん可能であるが、日常の臨床で神経系の問題を考えるときの参考書として解剖学と臨床症候を橋渡しする本書は、研修医からベテランの医師に至るまで非常に利用価値が高い。

もちろん臨床問題については、臨床の文献を読んだ上で神経解剖書をひもとく時間的余裕があれば、それがベストであろうが、本書は、その余裕のない臨床現場で働く医師、看護師、理学療法士など幅広い医療専門職およびそれぞれの領域の学生の座右の書となり得る好著として、ぜひ推薦したい。

●B5・264頁・1色刷

定価 3,780 円(本体 3,600 円+税 5%)

2012 年 医学書院刊